

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名： 岡山県北の隠れた絶景ポイントの発掘・保存・整備・活用！
美作国やまざと秘境ツアープログラム創生事業

2 実施団体： 真庭遺産研究会

3 担当課： 美作県民局 地域づくり推進課

4 事業概要

優れた自然と景観を有しながらも、これまで地域資源・観光資源としての十分な評価や有用な活用がなされていなかった岡山北の中国山地および山村地域に残る山里の秘境域をフィールドに自然体験型の環境学習プログラムを活用したツーリズムを観光事業や教育旅行を事業化するとともに、コロナ後の経済社会にも対応できる持続可能な広域観光交流エリアを形成させる。

5 実施内容

2018年より真庭遺産研究会では、真庭市北部を流れる下和川長とろでの環境保全活動とあわせて、自然体験学習活動(秘境長とろ探検)を進めており、2020年は夏の期間において1000人を超える参加申込もあり、地区住民や津黒高原荘との連携・協力関係も強化されているほか、県北と県南を結ぶ自然体験型ツーリズムの交流ネットワークも形成されつつあることから、この流れを生かし、■活動情報発信、■シーズン拡大、■フィールド拡大、■対象拡大、■エリア拡大、■コードづくりを行い、県北と県南を結ぶ自然体験型ツーリズムの交流ネットワークを組織化するとともに、美作地域の隠れた絶景ポイントの発掘・保全・整備・活用を取り入れた自然体験プログラム(美作国やまざと秘境ツアープログラム)の実施を行い、持続可能な事業の推進体制の構築を進めた。

そのための活動として、2021年は以下の4活動に取り組んだ。

①フィールド調査および自然体験学習プログラム作成

作業は、大山蒜山地域や中国山地において自然体験学習活動を進めるにあたり、連携協力関係にあるグラウンドワーク大山蒜山・晴れの国野生生物研究会・子ども自然いきもの倶楽部などの団体関係者にくわえ、自然体験学習について豊富な知識や技能を有する専門家(北川健司氏・小串重治氏・早川恵氏ら)に協力を求め、真庭市を中心にその近隣地域である鏡野町・津山市・新庄村・美作市・美咲町・西栗倉村の山村域・森林域・河川域において調査を行い、最小限の整備で実施可能であり、真庭遺産研究会の活動地域に近いフィールドについて、子ども

とその保護者を対象とした自然体験型環境学習プログラムの作成を進めた。

②自然体験型環境学習ツアープログラムの実施

子どもとその保護者を対象とした自然体験型環境学習プログラムは、真庭市蒜山真加子で8月～9月、津山市倉見地区で10月～11月、真庭市蒜山地域で11月、鏡野町恩原高原で11月～3月、真庭市勝山地区・湯原地区で11月～12月、真庭市蒜山下和で1月～2月に実施し、県内を中心に500人を超える参加者があり、プログラムの完成度を高めるとともに、県北と県南を結ぶ自然体験型ツーリズムの交流ネットワークづくりと取り組んでいる活動について、情報発信をはかった。

③自然体験学習ワークショップの開催

9月30日・10月1日に津山市倉見地区の山林・溪谷をフィールドに夏に人気のシャワークライミングをとり入れた自然体験型環境学習プログラムについて検討するワークショップを北川健司氏・内田佳秀氏を専門家として迎えて開催。ワークショップでは、倉見川源流域での自然体験型環境学習プログラムの作成や今後の事業検討とあわせ、リスクマネジメントや協力者募集をかねてガイド研修も実施。

④事業紹介デジタルコンテンツの作成

フィールドとなる岡山県県北の自然や景観の写真撮影(一部、ドローンでの撮影・動画撮影)や自然体験型環境学習プログラムの実施状況を写真撮影・動画撮影を行い、事業紹介デジタルコンテンツ作成に必要なビジュアル資料の収集を進めた。



倉見川源流の山地(根知山)に残るブナの原生林を探検し、森林環境学習



真加子の集落付近からゴムボートで下和川の淵を渡り、長とろに向かう

	
河畔に落葉樹林が発達した倉見川の 溪流をシャワークライミングで探検	河畔に雑木林が発達した下和川長と ろでの川の生きもの観察による環境学 習

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

2021年度の活動により、津山市倉見地区(倉見川源流域)、真庭市蒜山真加子(下和川長とろ)、真庭市蒜山高原(皆ヶ山山麓・鳩ヶ原一帯)、鏡野町上齋原地区(恩原湖畔と周辺林野域)において、質が高い自然体験型環境学習プログラムの実施が可能であることが判明、このうち、倉見川源流域でのシャワークライミングを取り入れた夏の環境学習プログラムとなるとの専門家の好評価もあり、今後は、学校向けの自然体験型環境学習プログラムの完成度を高め、県内の小学校に案内することになった。

本事業は、岡山県北の自然環境を資源に、真庭市・新庄村・鏡野町・津山市・美作市・西粟倉村など美作地域に暮らす個人・団体が連携し、県南地域の住民に活動参加を求めて行う広域的な取り組みであるが、その看板商品(プログラム)となる倉見川源流自然学校(倉見川源流域でのシャワークライミングを取り入れた夏の環境学習プログラム)の完成度を高め、実施しつつ、情報発信をはかることで、県北と県南を結ぶ自然体験型ツーリズムの交流ネットワークづくりや協力者づくり、運営組織づくりも進む。

本事業で追求するツーリズムの姿は、従来のように多くの観光客を特定の区域に導き入れ、お金を消費させる形でなく、美しい景観の中、静かで穏やかに長時間ゆっくりと自然や風景を楽しむ旅の姿であり、いわゆる観光関係者でない県民・市民・地区住民が主体となって進める「新しい日常」にも対応可能な次世代の観光交流事業も発生し、コロナ後の経済社会にも対応できる持続可能な広域観光交流エリアの形成への具体的な一歩となるばかりでなく、これまで役に立たない土地として放置されていた岡山県北の広がる遊休林野のワイズユースも進み、緑(生物多様性)豊かで美しい郷土景観の保全再生が持続可能な形で展開可能となる。

(2) 今後の課題

活動を通じて感じたこととして、いまだ観光事業者を中心とした従来観光となっており、一般市民・県民の目線での観光が語られていないことである。

活動により、岡山県県北部には、人知れず優れた環境を残す自然域が多く残されているものの、これを観光資源として活用するにあたっては、駐車場やアクセス歩道、広場、避難小屋などの整備が必要であり、公共事業による短期での整備と、市民・環境団体などによる時間をかけた整備の二つの方法が考えられる。

今後の山村地域の観光のあり方としては、公共事業による短期での整備は、様々の点から難しいことから、市民・環境団体などによる時間をかけた整備が妥当と考えるが、その場合、秘境探検としての活動を継続しながら、時間的スパンとして5年～10年かけて整備していくことが必要であるが、これを実施することのできる市民・環境団体が少ないことが課題である。

この課題を解決すべく、真庭遺産研究会では、協力関係にあるグラウンドワーク大山・蒜山などと連携し、大山・蒜山地域や岡山県北部を中心とした中国山地を活動エリアとした自然体験学習を推進する事業組織を立ち上げ、これに係わる形で、市民・環境団体を育て、将来的には、県北に優れた景観を残す山里の秘境域についてのワイズユースをはかる。

そのためには、地道であっても、現在の子どもとその保護者が楽しめる自然体験型の環境学習プログラムとしての山里秘境の探検ツアーを継続しつつ、環境学習プログラムとしての質を高めることで、生物多様性の保全やSDGsを企業戦略とする企業との連携をはかり、これら岡山県北に残るやまざと秘境を活かす形で、SDGsと結びつけて新しい観光スタイルを追求する。

7 県民局と連携した効果及び課題

県民局と連携については、精神的には大きな力となったが、県民局からの具体的なアイデアや提案は示されなかった。

真庭遺産研究会としては、「観光」を環境保全・景観保全の有効な手段として考えており、自然体験や環境学習、生物多様性の保全、景観保全活動を取り入れた観光の事業化を考えており、これを前に進めるべく、県民局との連携を期待して、この事業に応募した。

結果的には1年間という短い期間では、連携による十分な成果が得られたとはいえないが、事業により下和川長とろと倉見川源流域をフィールドとした夏の環境学習プログラムについては、美作地域の全小学校に紹介できるまでになり、今後、多くの児童生徒やその保護者が下和川長とろと倉見川源流域で自然を体験することになる。

言わずとしれた美作地域北部は、世界的にも注目される国の特別天然記念物オオサンショウウオの重要な生息地であり、下和川や倉見川は繁殖地でもある。

これら自然体験活動を継続することで、岡山県北の山間部には人知れず優れた

景観や自然が多く残っていることを知ることになり、美作地域の観光ポテンシャルも再評価されることになることから、観光の新しい担い手として、市民・環境団体や生物多様性の保全やSDGsを企業戦略とする企業が主体的に事業参加する観光事業スタイルの確立が期待できるエリアとしてフィールド活用を期待している。

そのためには、ランドスケーププランニングや生態系保全計画と言った自然域での観光地づくりには重要な作業も必要であるが、そのような発想の意見が委員会から示されていないことに、県民局との連携の課題を感じている。